

令和元年度 雲南地域保健医療対策会議

日 時：令和元年8月1日（木）

14：00～16：00

場 所：雲南保健所 2階 集団指導室

開会あいさつ（雲南保健所 梶浦 所長）

本日の会議では、1つめに、保健医療計画の進行管理として、圏域で独自に設定したKPI（重要業績評価指標）を中心としたそれぞれの取り組みの進捗状況を確認することと、2つめに、昨年度の後半から病院を中心に議論を重ねた、医師確保の取り組みについて検討いただきたい。

医師確保については、国でも医師法、医療法が改正され、各地域で医師確保計画を策定しなければならないことになった。雲南圏域では、いいタイミングで議論ができると考えている。本日は医師確保計画の骨子案をお示しする。地域医療を守ることは、住民生活のセーフティネットそのものである。成案化作業に向けて、忌憚のない意見を頂戴したい。

報告事項（雲南保健所 総務保健部 黒崎 部長）

(1)新委員の紹介(3名)

- ・雲南市立病院 院長 西 英明 様
- ・雲南医師会 会長 永瀬 英雄 様
- ・雲南地域介護サービス事業管理者連絡会 副会長 景山 知充 様
- ・残任期間は、令和2年3月31日まで

(2)設置要綱の改正について

- ・昨年度までは、医師会からは副会長含め2名の委員にご参加いただいていたが、今回から会長のみの参加となったため、設置要綱を改正させていただきたい。

(3)会議の公開について

- ・今年度から、基本的に、地域医療構想調整会議は全県統一して公開扱いとする事となった。従来から、雲南圏域は、会議自体は公開していたが、資料・議事録等についても、県HPにて公表することとなった。

（雲南保健所 総務保健部 黒崎 部長）

本会議の設置要綱第5条第2号に基づき、議事進行を委員長にお願いする。

委員長あいさつ（雲南市 藤井 副市長）

近年、社会保障改革が急激に進められている。医療・介護分野においても平成28年度に地域医療構想が策定され、平成30年度からの医療計画、介護保険事業計画が動き出している。また、雲南圏域の大きな課題である医療従事者確保と関連して、今年度は医師確保計画や外来医療計画の策定が予定されている。医療機関・介護事業所においては、平成30年4月の診療報酬、介護報酬の同時改定への対応や従事者の確保など、大変苦勞されていると思う。団塊の世代がすべて後期高齢者になる2025

年、現役世代が急激に減少する2040年を見据えて、ますます地域包括ケアの構築、医療介護連携の推進の動きが加速していく。人口構造の変化をはじめとした社会情勢の変化を敏感にキャッチし、それぞれが当事者意識を持って取り組んでいただきたい。

雲南市においては、雲南市立病院地域ケア科の取り組みを進めている。また、NPO法人おっちラボの取り組みにより、UIターン者が地域で活躍している。そして、雲南市内の30の地域自主組織がそれぞれの地域の課題解決のため、行政と一体となって取り組んでいる。各地域においても、地域包括ケアの理念を実現するために、住民の健康長寿を進めることが重要となってくる。

本日のように、関係機関が幅広く集まり、積極的に知恵や意見を出し合い、住みよい雲南圏域を目指していくことが重要。本日は、限られた時間ではあるが、積極的なご発言のご協力をお願いしたい。

議 事

1. 保健医療計画の進行管理について

(1)資料1-1、1-2により説明（雲南保健所 医事・難病支援課 杉谷 課長）

(2)資料1-3から、主な取り組みについて各団体より報告

雲南市立病院 西 院長

○救急医療：

（H30）救急車の受入件数の増加を図る。H29：329件、H30：392件

○災害医療：

（H30）災害時事業継続計画（BCP）の概要版を作成。

○周産期医療：

（H30）分娩件数が増加。H29：39件、H30：69件、R1目標：80件

○在宅医療：

（H30）訪問診療、往診、在宅看取りを実施。

○健康づくり・介護予防：

（H30）医療出前講座を週2回計100回開催。

○母子保健：

（H30）産後ケア事業を実施。

○従事者確保：

・地域枠推薦医師が1名着任。現在2名の地域枠推薦医師が従事。

○地域医療：

（R1）平成31年4月1日に掛合診療所が病院附属診療機関として開所。

町立奥出雲病院 鈴木 院長

○地域医療：

（H30）島大医学部地域枠入学者1名。

○在宅医療：

（H30）栄養士が患者の自宅等に訪問し、栄養指導を実施。

（R1）看護師を充実させ、訪問看護に取り組む。「訪問看護事業」に病院の看護師3名配置。

飯南町立飯南病院 高橋 事務長

- がん：
 - (H30) 敷地内禁煙開始。
 - (R1) 禁煙外来開始。
- 脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患：
 - (H30) 専任の保健師を配置し、地域や行政との連携もスムーズになった(小児医療、精神疾患も同様)。健診・精検の受診率の向上にもつなげていきたい。
- 糖尿病：
 - (H30) 教育入院のパス作成。H30 までは糖尿病の専門医がいたが、R1 はいない。
- 災害医療：
 - (H30) 災害対策委員会を発足。
 - (R1) 災害想定訓練を実施。病院内で本部設置。
- 在宅医療：
 - ・訪問診療 (H29) 100件、(H30) 200件
 - (H30) 入退院調整のための社会福祉士を配置。
 - (R1) 地域包括ケア病床の増床(8床→10床)
- 緩和ケア及び人生の最終段階の医療：
 - (H30) 看取り(自宅5件、施設11件)。

平成記念病院 永井 事務局長

- 精神疾患、健康づくり・介護予防：
 - (H30) 当院併設老健の理学療法士2名が指導者資格を取得し、10月から認知症予防運動プログラム「コグニサイズ」教室を月1回開催。毎回20名程度が参加。
 - (R1) 当院併設老健の介護福祉士も資格取得し、指導者を増やし、H31.4月からは月2回開催。
- 在宅医療：
 - (H30) 近隣の有料老人ホームへの訪問診療を開始。退所後も安心して過ごしていただけるように。
- がん：
 - (R1) 7/1より敷地内全面禁煙実施。
- 脳卒中：
 - (R1) 現在常勤4名体制だが、9月より神経内科の脳卒中専門医が1名、常勤医師として勤務予定。これにより、脳卒中や認知症への対応強化につながる。
 - (R1) 5月より、作業療法士1名採用。併設老健だけでなく、病院でのリハも予定。

奥出雲コスモ病院 今岡 院長

- 精神疾患：
 - (H30) 公認心理士非常勤2名配置。
- がん：
 - ・7/1から敷地内禁煙実施。入院患者もなんとか禁煙を継続している状態。

雲南医師会 永瀬 会長

- 糖尿病：
 - (H30) 糖尿病サークル活動(大原、飯石、奥出雲)。世界糖尿病デーに合わせて、ブ

ブルーライトアップを実施。500～600名程度が参加。

○在宅医療：

(H30) 在宅医療意見交換会を開催。

(R1) 勤務医や薬剤師、ケアマネの意見を聞く。

雲南歯科医師会 青木 代表

○がん、健康づくり・介護予防：

(H30) 後期高齢者歯科口腔健診を実施。オーラルフレイルの早期発見・早期対策につなげる。この健診で集めた結果をもとに、雲南地域包括口腔ケア会議で話し合う。

島根県看護協会雲南支部 白石 支部長

○災害医療：

(H30) 県看護協会の事業に参加し、災害支援ナースの登録や人材育成に取り組んだ。

(R1) も同様に取り組む。7/31現在、島根県で103名が登録。

雲南広域連合雲南消防本部 石田 警防課長

○心筋梗塞等の心血管疾患、救急医療：

(H30) ・心肺蘇生法の講習会を177回実施。

・目標は188回だが、参加率は向上している。

・救急救命士の再教育受講率100%。

雲南市社会福祉協議会 杉原 事務局長

○医療連携体制：

(H30) 「看取りのしおり」と「ケアガイド」をまとめた。

○精神疾患：

(H30) ・「ひきこもり」の方への支援方策として、雲南市と連携し、「若者の就労支援事業」フリースペースに取り組んだ。

・認知症について、ユマニチュード研修に参加。

雲南圏域健康長寿しまね推進会議 加納 会長

○がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患、健康づくり・介護予防：

(H30) ・推進会議全体会にて、圏域健康課題（大腸がん、脳卒中、メンタルヘルス対策等）についてのミニ学習会を開催し、課題を確認するとともに今後の活動の方向性について検討。

・世界糖尿病デー雲南ブルーライトアップイベントにおいて、受動喫煙防止・禁煙支援、運動習慣の定着、減塩、歯周病予防、メンタルヘルス等に関する啓発を実施。

・活動推進交流会を開催し、飯南町の住民主体の介護予防体操について学習会と情報交換を実施。

(R1) ・例年同様各種予防活動を実施。特に、推進会議全体会においては、効果的な啓発活動を進めるための意見交換を実施。

・5つのプロジェクト検討会議で、個別の課題に対し、啓発活動を行っていく。

雲南地区栄養士会 谷山 会長

○糖尿病、健康づくり・介護予防：

(H30) 看護協会「まちの保健室」参加。R1は依頼がないので実施しない。

(R1) 病院や介護施設で食形態の統一化をするために、雲南圏域の病院や介護施設の食形態の状況を把握する予定。

- ・包括ケアについて、栄養士には連携の場がなかなかないので、市町の地域ケア会議や地域連携の場への参画の声かけをしていただければと思う。

雲南地域介護サービス事業管理者連絡会 景山 副会長

○従事者確保：

(H30) 介護職員の不足を補うために、EPA、技能実習の制度について学び、視察を行った（宝塚市）。

雲南地域介護支援専門員協会 本間 会長

○医療連携体制：

(H30) (R1) 医療介護連携をテーマに研修会を開催。

(R1) ・訪問看護師を講師に研修会を開催。

- ・連携、記録をテーマに研修会開催を予定。

○緩和ケア及び人生の最終段階の医療：

(H30) 介護支援専門員協会中国ブロック研究大会で発表（自宅看取りが身近な地域に向けて）。

雲南広域連合 長谷川 事務局長

・第7期介護保険事業計画の初年度であった H30 の給付実態は、計画を少し下回る状況で推移。介護医療院42床については進展なし。

・(R1) 第8期 (R3年度～) の計画策定に向けて実態調査を実施する。

要介護等の状況にある600名を対象に在宅介護実態調査を実施。

65歳以上の自立した高齢者3,600名を対象にニーズ調査を実施。

介護事業者へのヒアリングも行う。ご協力をお願いしたい。

保険者協議会健康保険組合連合会島根連合会 乙社 常任理事

・(R1) 9/1から歯科検診を実施。

保険者協議会島根県国民健康保険団体連合会 青木 事務局次長

・全県の医療保険者を対象に研修等を実施。

・国保事業のサポートを実施。特定健診、特定保健指導等の実務研修等を保健師中心に実施。

がんばれ雲南病院市民の会 矢壁 事務局長

○地域医療：

(R1) 病院ボランティア活動について、2,000円/人×50人の年間予算で継続。

奥出雲町地域医療確保推進協議会 和久利 氏

○地域医療：

(H30) 奥出雲病院の現状とへき地医療について奥出雲病院長の講演実施。

○従事者確保：

(H30) U I ターン医療人材確保に向けて、特に介護現場で働ける看護師の確保に目を向け、東京、大阪、広島でのU I ターンフェアに参加。

(R1) U I ターンフェアに引き続き参加。

○緩和ケア及び人生の最終段階の医療：

(R1) 総会に併せた研修会において、人生の最終段階をテーマに講演及びグループワークを実施。

奥出雲町 健康福祉課 陶山 課長補佐

○がん：

(R1) 精検未受診者へのコール・リコールモデル事業の実施。

大腸がん検診精検未受診者への受診状況調査を実施。

○脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病：

(H30) 健康管理への早期意識づけや壮年期の疾病予防を目的として、国保に加入する30歳代の方への健診を実施。継続受診率5～6割。

(H30) 奥出雲町国保特定健診CKDフォロー体制の見直し（フォロー対象13名）。

(R1)・特定健康診査でのインセンティブ制度の導入。

・AIを活用した特定健康診査未受診者対策の実施として、3年間継続受診者以外の方を、問診項目からタイプ別に5パターンに分けて、受診勧奨を行う。昨年度の集団検診受診者数より増加傾向で、一定の効果あり。

○精神疾患：

(H30) 自死対策市町村計画を策定。

(R1) 奥出雲町のち支える自死対策計画として推進。

(H30) 高校生、島根リハビリテーション学院の学生を対象に自死予防街頭キャンペーンを実施。

(R1) 中学生を対象に自死予防街頭キャンペーンを実施。ゲートキーパー研修も引き続き実施。

○周産期医療：

(R1)「子育て世代包括支援センター」設置について、R2年度開設に向けて協議。

○健康づくり・介護予防：

(H30) 奥出雲町げんきプラン21第2期計画に沿って、各計画のスローガンを設けて取り組む。

(H30) H29に島根大学と合同で事業所を対象に実施した食に関するアンケートの結果をもとに、食生活等の調査に関する報告会を開催。

(H30) 地域包括ケアシステム構築推進会議において、介護予防部会を設置しており、介護予防事業についての検討も実施。

飯南町 保健福祉課 小玉 課長

○医療連携体制：

(H30) 飯南病院地域医療部に専任の人員を2名配置（うち保健師1名）。

○がん：

(R1) 公共機関での敷地内禁煙実施。

○脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病：

(R1)・企業に健康づくりの意識を持ってもらうために、優良事業所表彰を実施。

・糖尿病性腎症重症化予防プログラムの運用。

- ・国保人間ドックの助成について、対象者の拡大を実施。
- ・後期高齢者人間ドックの助成。
- ・A I を活用した特定健康診査の受診勧奨。

○精神疾患：

- (R1)・福祉事務所に子ども若者支援担当(専任)配置。保健師兼務。これにより、子どもの不登校や若者のひきこもり等の対応が可能になった。
- ・子育て包括支援センターの設置について、職員を配置し、R2春の開設を目指す。

○災害医療：

- (R1)町の防災訓練に併せて、保健師の災害時初動マニュアルを確認し、整備を進め、町の地域防災計画に載せていけるように準備を行う。

○健康づくり・介護予防：

- (R1)認知症予防の強化として、認知症ケア啓発を実施(11月、映画上映予定)。

雲南市 健康福祉部 小山 部長

○医療連携体制：

- (H30)在宅医療介護支援センターを新設。市として、医療介護の専門機関からの相談に対応。

○脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病：

- (H30)島根大学や地域自主組織との協働による生活習慣病予防の取り組みを強化。

○精神疾患：

- (H30)・自死総合対策計画の策定。5年計画。
- ・H29までは平均15名が自死。

○周産期医療：

- (H30)「母子健康包括支援センターだっこ♪」を開設。嘱託保健師2名。

○健康づくり・介護予防：

- (H30)「うなんん幸雲体操」市内22箇所で参加者は295名。
- (R1)「うなんん幸雲体操」に引き続き取り組む。

(委員長 雲南市 藤井 副市長)

雲南保健所をはじめ各団体におかれては、本日のご意見を十分尊重されて、今後の取り組みに生かしていただきたい。

2. 医師確保計画、外来医療計画の策定について

(1)資料2-1~2-6により説明

(雲南保健所 梶浦 所長、医事・難病支援課 杉谷 課長)

(委員長 雲南市 藤井 副市長)

今後具体的には、雲南圏域地域医療構想調整会議医療部会で議論していただくことになる。

(2)質疑、応答

雲南市立病院 西 院長

- ・地域ケア科は今年度3名。来年度もう1名増える予定。
- ・地域実習等で来た学生にできるだけ地元に残ってもらいたい。

町立奥出雲病院 鈴木 院長

- ・計画策定スケジュールがタイト。
- ・医師確保のために、具体的な数値を設定し、実効性のある計画に落とし込めるように調整していただきたい。

飯南町立飯南病院 高橋 事務長

- ・医師の数の確保と同時に、地域に必要な医師を地域で育てる計画にしていきたい。

3. その他

(1) 認知症疾患医療センターについて

資料3-1により説明 (雲南保健所 総務企画スタッフ 竹下 企画員)

(奥出雲コスモ病院 今岡 院長)

当院に雲南圏域の認知症疾患医療センターを設置するため、昨年度から島根県健康福祉部と雲南保健所を中心に検討が進み、現在手続きを行っている。当院は、高度医療機器を持たないので、雲南市立病院のMRI・CT装置を利用し、センター設置の許可を得ている。また、さらなる高度医療機器を島根大学にご協力いただけるように検討を進めている。今年度10月1日付け設置に向けて、ご指導いただいているところである。

(2) 改正健康増進法について

資料3-2により説明 (雲南保健所 健康増進課 永瀬 課長)

(3) 医療連携推進事業費補助金の2次募集について

資料3-3により説明 (雲南保健所 医事・難病支援課 杉谷 課長)

閉会あいさつ (雲南保健所 梶浦 所長)

保健医療計画の進行管理について、各団体の取り組みを直接ご報告いただき、着実に進んでいただいていると感じた。昨年度の当会議で、皆で切磋琢磨しながら計画を進めていこうと発言したが、いろいろな団体の取り組みを参考にしながら、来年度の事業計画を組んでいただきたい。

医師確保計画について、タイトなスケジュールとなっているが、雲南圏域においては昨年度から検討しており、皆さまの意見が心強い。骨子案について、他圏域に先んじて、当圏域でお示しした。今後、成案化作業に向けて特に病院の方々にご協力をお願いしたい。